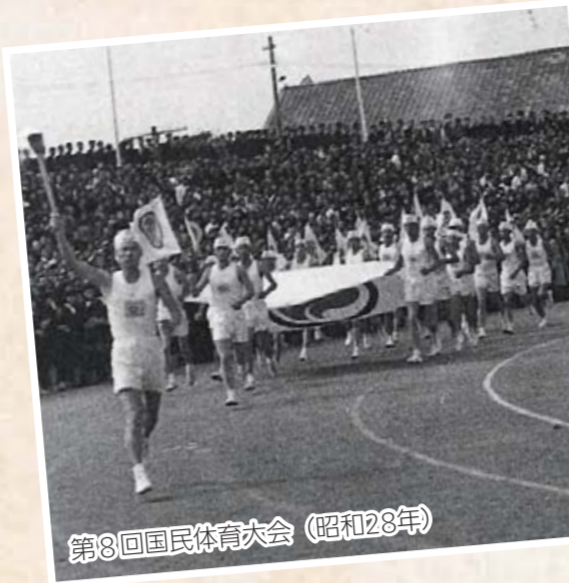


戦後70年特集



道後温泉本館改築120年を記念した「道後オンセナート2014」、本館が最先端のメディアアートと融合 (平成26年)



第8回国民体育大会 (昭和28年)



大街道商店街入りの国体選手を歓迎する横断幕 (昭和28年)



南海大地震により止まっていた道後温泉が再び湧き出したことを祝う「復興祭」(昭和21年)。現在も、道後温泉まつりとして行われている

復興の歩み

人口50万人、年間570万人以上の観光客が訪れる都市となった松山市。その歩みを写真でたどります。



今年で30回目となる中島トライアスロン。第1回を報じる広報なかじまの紙面 (昭和61年) と、合併後初めて開催された第20回大会の様子 (平成17年)



水泳スタート
第1マラソン
自転車

特集76
マラソン
ゴール

今年で第50回を迎えた松山まつりの第1回目の様子 (昭和41年)



松山おどり



第51回全国高校野球選手権で4度目の優勝を遂げ、大街道をパレードする松山商業高等学校野球部 (昭和44年)

市制施行30周年を記念し、松山春まつりを開催 (昭和44年)



島の無形文化財に指定され、今も続く権繰り(左)と、多くの人でにぎわう夏の鹿島の様子 (昭和50年代)



平成に入り、洪水や地震などの自然災害に見舞われました。その一方で、旧北条市・旧中島町との合併により四国初の50万都市になるなど、着実に発展を遂げています。



洪水のため、給水車に並ぶ市民 (平成6年)



芸予地震により、校舎に亀裂が入った湯築小学校 (平成13年)



戦争を「風化」させてはならない

先の大戦で亡くなられた数多くの方々のご心情とご無念を思うとき、決して癒やされることのない、忘れることのできない深い悲しみが胸に迫ってきます。

松山大空襲で焼け野原になってから70年、松山は先人のためまぬ努力で、四国最大の都市として、着実に発展を遂げてきました。

幸いにも70年間、日本は戦争のない時代を過ごしていますが、一方で戦争を体験された方が少なくなっているという現実があり、それは「風化」につながる懸念があります。

だからこそ、戦争を経験していない私たちは、体験された方の声にしっかりと耳を傾けなければなりません。戦争の悲惨さと平和の尊さを理解し、それを次の世代に伝えることが今生きる私たちの重要な責務で、まちの発展につながると考えています。

松山市長 野村 克仁



市駅を出発し、中の川を走る坊っちゃん列車 (昭和28年)



運行60周年を迎える松山城ロープウェイ。運行初日には2,000人以上の人が「ごまどり」と「ひよどり」に乗車 (昭和30年)

昭和の時代には松山まつりや松山城ロープウェイなど、現在も親しまれているものが数多く誕生しました。また昭和28年には、四国4県合同での国体も行われました。